

講義名	臨床心理アセスメント			授業形態	
担当教員	隈元 みちる	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要
 臨床心理アセスメントとは、心理支援のために、関わりをもつ相手の現在の状態や、その状態の背景として想定されるものを捉えようとする試みである。そのためには、どのような支援を目指すのかという支援者の立場や目標も明確にする必要がある。その上で、支援を行うために必要な情報を整理し、その情報に近づくためのアセスメント方法を選ぶ、という手順となる。
 本講義では、臨床心理アセスメントについて、まずは上記のような基礎となる考え方を解説し、さらに実際の臨床現場で用いられている様々なアセスメント方法を詳述する。アセスメントの実態をより理解するために、臨床現場で用いられることの多い心理検査を中心的に取り上げ、各検査の歴史的背景や実施方法を学習の上、実際に検査を体験してもらう。そして、心理アセスメントをどのように支援に活かせるかについて討議の機会を設ける。

到達目標
 臨床心理アセスメントの基礎となる考え方や実施の流れについて理解できるようになる。
 特定の検査法について、その検査がもたらす情報や実施手順を理解できるようになる。
 特定の検査法について、その結果をどのように支援に活かすことができるかを考えることができる。

提出課題
 講義内で取り組んだ課題の提出および期末課題の提出を求める。課題の内容等の詳細については講義内で説明を行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 提出された課題については、課題全体を通して特に気になった点および今後の課題において留意してほしい点について講義時に解説を行う。

評価の基準
 各講義回の提出課題（80%）、期末課題（レポート試験）（20%）

履修にあたっての注意・助言他
 講義で取り組む心理検査については、自身の特性や人格が少なからず反映されるものであることから、互いを尊重し、必要な場合には秘密を保持する姿勢が必要である。また、他の人の邪魔になるような行為（私語、スマホ等の通話等）は認めない。

教科書
 .使用しない。

参考図書
 .なし。

その他
 教科書は特になし。必要に応じてプリント資料を配布し、講義内で適宜参考文献を紹介する予定。

- 授業計画**
- オリエンテーション、臨床心理アセスメントの概説
 - アセスメントの実践：WHO QOL26の概説・体験
 - アセスメントの実践：TEG 検査の概説・体験
 - アセスメントの実践：TEG 検査の応用
 - アセスメントの実践：ウェクスラー式知能検査 検査の概説
 - アセスメントの実践：ウェクスラー式知能検査 検査の体験その1
 - アセスメントの実践：ウェクスラー式知能検査 検査の体験その2・応用
 - アセスメントの実践：ウェクスラー式知能検査 検査結果の見方・伝え方
 - アセスメントの実践：MSM（交互くぐる指き物語統合法）の体験
 - アセスメントの実践：P-Fスタディ 検査の概説・体験
 - アセスメントの実践：P-Fスタディ 検査の応用
 - アセスメントの実践：P-Fスタディ 検査レポートの書き方
 - アセスメントの実践：風船構成法検査の体験その1
 - アセスメントの実践：風船構成法検査の体験その2
 - 本講義の総括・アセスメントレポートの作成・期末レポート説明
- *この計画を基に、講義受講学生の興味や理解に応じて一部変更の可能性有

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 予習は、講義で紹介する参考文献を通して、臨床心理アセスメントおよび検査法に関して概要を学習することが望ましい。（第15回の講義以外の各講義で1時間、合計14時間）
 復習は、講義で実施した各検査法の内容や講義内容を振り返り、参考文献等を通して理解を深め、各課題の完成度を高めること。（第1～3回、第15回以外の各講義で3～4時間、合計36時間）。加えて、期末課題（レポート試験）に向けて、講義中に取り組んだ課題の改善点を確認し、レポートの完成度を高めること。（10時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 臨床心理アセスメントの基礎を学ぶことは、多様な状況下で、人々がどのような心理状態にいるかを汲み取ることができている。また、代表的な心理検査法やその支援方法を理解することは、臨床心理的な視点で人々の持つ悩みに触れ、どのように相手と関わるかを学ぶことになる。これらは、卒業認定・学位授与の方針に沿ったものであり、先に記載した到達目標 - を達成することでもある。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考